

別記様式第7号

公益信託ぎふNPOはつらつファンド
実績報告書(事業助成用)

平成18年10月31日

公益信託ぎふNPOはつらつファンド受託者
三菱UFJ信託銀行株式会社 あて

住 所:〒502-0817
岐阜市長良福光 2658 ふれあいの家長良
法人(団体)名:特定非営利活動法人
岐阜子ども劇場スマイルパーク 印
代表者名: 理事長 片山美登勢

公益信託ぎふNPOはつらつファンドから平成17年度(前期・後期)の事業助成を受けた事業が完了しましたので、下記のとおり関係書類を添えて報告します。

1. 事業名

子どもたちにもっとゆとりを、もっと遊びを、もっと文化芸術を！
～舞台公演「モモと時間どろぼう～あなたモモの話、知っていますか」～

2. 助成の種類 該当するものに を付けてください。

法人設立準備助成	立ち上げ時事業助成	展開期事業助成	人材育成事業助成
----------	-----------	---------	----------

3. 助成金額

既交付金額	1,863,000千円
実績額	1,863,000千円
差し引き額	0千円

4. 事業実施期間

平成18年2月14日 ～ 平成18年9月30日(7か月間)

1. 実施した事業の実績・成果

事業名「子どもたちにもっとゆとりを、もっと遊びを、もっと文化芸術を!!
～舞台公演「モモと時間どろぼう」、あなたモモの話 知っていますか～」 H18.10.31

実施日時	会場	対象者・参加者	実施内容	活動の成果等
1月19日(木)	ぎふNPOセンター	大人 実行委員 17名	以降 2/14 2/27 3/14 4/20 5/22 6/22 と計7回開催	岐阜市、羽島市、瑞穂市、本巣市など 岐阜圏域に広がった実行委員会が出来ました。 当事業助成計画書の「ニーズ」「課題」に記した、 「文化芸術、文化的な環境は生きる喜び」(文化芸術振興基本法) 「子どもたちに、もっとゆとりを、もっと遊びを、もっと文化芸術を」 (子どもの権利条約) 「文化芸術は子どもの育ちにとって不可欠」 (私たち子ども劇場の30年間の活動の結果の確信) 「ゆとりを失いつつある現代へ！子どもたちへ！」 のテーマをいっぱい話し合い、本舞台公演「モモと時間どろぼう」は、時

			<p>間どろぼうに時間をぬすまれた現代の大人・子どもたちが、まさに時間を取り戻す出発点と気づく過程でもありました。</p> <p>また私たちは、地域の皆さんにこのテーマへの共感を呼びかけ、地域の皆さんと共に一人ひとりの子どもがより輝いて生きられる環境づくりをめざそうと思いついた実行委員会の日々でした。</p>	
3月7日(火) 11:00 ~ 12:30	岐阜県立図書館	大人 40名	<p>事前交流会第1弾! 富山早苗講演会 「モモと時間どろぼう」 さきどり企画 講師：富山早苗さん (前回の舞台でモモ役の役者)</p> <p>劇団仲間ってどんな劇団? 「モモと時間どろぼう」への思い 「モモ」を演じていた時の思い・エピソード」など</p> <p>いっばー聞いて盛り上がるう!</p>	<p>前回の舞台で、まるで原作から飛びたしたかのように、すてきなモモ役を演じた富山早苗さん、そして今夏モモ役を演じる鶴田さんに来ていただいて、イメージをふくらませる劇あそび・表現遊びをしました。</p> <p>舞台公演の冒頭、少女モモが暮らす昔々の円形劇場の廃墟での航海ごっこの場面があり、たいへん楽しく、この物語を象徴する場面です。「モモはただいだけ、みんなと一緒に遊ぶだけです。ところがそれだけで子どもたちの頭に、すてきな遊びがひとりだけで浮かんでくるのです。毎日みんなは新しい遊びを、すてきな遊びを考え出しました」(原作より)</p> <p>モモのこぼれに誘われてイメージをふくらませる、まるでモモのいる街の住民になったかのように、4ヶ所で「表現ワークショップ」をしました。</p> <p>意図して企画しないと、子どもたちの遊びさえ皆無に近い状況です。このワークの中で多くの異年齢の友達と表現遊び・劇あそびをしたことが、少しでも次の時代へのきっかけに、広がりにつながればと考えています。</p>
3/29 10:30 ~ 12:30 14:00 ~ 16:00 3/30 10:00 ~ 12:00 13:30 ~ 15:30	大人+子ども 羽島市正木地区公民館 18 + 28名 岐阜市北部コミセン 15 + 23名 北方町勤労青少年ホーム 8 + 30名 瑞穂市東南町公民館 2 + 11名 計 43+92名	<p>事前交流会第2弾! 子どもの表現力を育てる ワークショップ 「モモのいる街」の住民になろう! ~イメージをふくらませる劇あそび・表現あそびを楽しめよう!~ 講師：劇団仲間の富山早苗さん (カシオペア役) 鶴田まやさん (モモ役)</p>	<p>「 “ 時間を奪われる ” ということは “ 生 ” をも、奪われることではないでしょうか?自分で決断した時間は “ 自分の手の中にある時間 ” になるので、奪われないのでは?ないでしょうか?」と堀内先生は言いました。</p> <p>以下、堀内さんの講演「エンデの贈り物」を聞いての感想を集めました。(別添感想文集参照)</p>	
5月14日 10:30 ~ 12:30 14:00 ~ 16:00	岐阜市南部コミュニティセンター 北方町生涯学習センター「キラリ」	大人 38名 33名 計 71名	<p>事前交流第3弾! 堀内美江講演会「エンデの贈り物」 講師：堀内美江さん (早稲田大学非常勤講師) 「モモ」誕生の秘話 「モモ」という女の子が描くものは何か 「モモ」が私たちに告げるメッセージは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代っ子も一昔前の子どもも、“子ども”という存在は何も変わっていないと思います。大人だけが変わっているのかなあ~ ・とっても豊かな時間をありがとうございました。大切なものに気づけたように思います。流されつつも立ち止まって・・・何かを感じてつかんでみたい。 ・役に立つ人間でなければ!何かやらなきゃ、何か与えられる人間にならなければとオロオロとしていた私自身。今日お話を聞いて、人間に“役に立つ”という言葉は当てはまらないというのに、はっとさせられました。時間やものは自分で使おうと思えばとられないということがわかってうれしかったです。 ・先生のお話で「待つ」ということばが心にのこりました。子どものことも心の中では“もっと待ってあげなくちゃ”と分かっていても、ついせかしてしまう毎日。何とかしたい! 待って、思って、新しい一歩。そんな新鮮さをもう一度モモと 出会って取り戻したいです。 ・感性豊かな子どもたちになってほしい。周囲は目に見える効果ばかりを重視しているように思います。私たちも強い思いを持ち続けながら、活動して行けたらなと思いま 	

			<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の質・子どもに対して、大人になったらとか、将来のためにとか、未来に標準を合わせるやり方は、今を空洞化していかせるんだろーなーと考えさせられました。 ・私の生きている時間を大きく豊かしてくれたエンデにあらためて心から感謝します。「思うこと」希望を持って「思い続けること」をもう一度自分に言い聞かせたいと思います。 ・今日のお話しは、自分がこうしたい、こうなりたい、という「思い」が大事という事が本当に勇気づけられました。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人の子どもの母親です。私は良い教育・良い学校と思っている反面、子どもにはのびのびと自分らしく、と反対のことも思いいつも悩んでいます。今日のお話しを聞いて少し気が楽になりました。 ・「モモ」の劇がより楽しめる気がして6/3のことを考えると子どもと一緒に見れることにわくわくします。 <p>今日の堀内先生のお話を聞いて、たくさんの方が真摯な感想を寄せて下さいました。ありがとうございました。</p>
6月3日 18:00 ~ 20:20	長良川国際会議場ホール	小1以上 会員 216名 チケット 512名 合計 728名	<p>劇団仲間公演「モモと時間どろぼう」 ~時間どろぼうにぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子の物語~ 原作:ミヒヤエル・エンデ</p> <p>3/7 劇団仲間の富山さん(以前のモモ役)のお話、3/29-30 富山さん・鶴田さん(今回のモモ役)の表現ワークショップ、5/14 堀内美江さん講演会と、舞台公演本番前に3回の事前交流会に取り組み、多くの親子が、今回のテーマ「子どもたちにもっとゆとりを、もっと遊びを、もっと文化芸術を！」を身近に感じ、舞台公演に期待を膨らませてきました。本番は700人を超す親子が集まって観ました。本番の舞台公演の様子は別添えの写真・感想文集にまとめられています。次の感想文は子どもたちが受け止めた代表的なものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モモはとっても勇気があると思いました。モモはたくさん友達がいたので、わたしも、たくさん友達がいてほしいと思いました。(小6) ・(モモは)いろいろな心を持った仲間がいたから楽しそう(小2) ・モモを見ているとわたしまで、楽しく、元気になった気がしました ・自分たちがモモの世界に入っているような気分でした。時間どろぼうは人間自身がつくり出しているんだなぁと思いました(中学生) ・劇団四季より見ごたえがありました(中学生) <p>私たちの団体の会員の3~4倍のたくさん子どもたちと大人たちがこの舞台公演に参加し、生の大型舞台・テーマへの共感を通して、岐阜地域の中に、子どもたちと舞台芸術の幸せな出会いとネットワークがつけられ、広がってきたと確信しています。</p>

(今後の課題)

今回の私たちのテーマ「子どもたちに、もっとゆとりを、もっと遊びを、もっと文化芸術を」と「モモと時間どろぼう」の舞台公演は、本当に時期を得ているテーマだと実感しています。

つい先日の、瑞浪の中2の女の子をはじめとする何人かの「いじめによる自殺」は、先に触れた「時間を奪われる」ということは「生」をも奪われる。」(堀内美江先生)を思い出してしまいます。

こども劇場せたがやの水留尚子事務局長は言います。

「今の社会、本当に人と人との関わりが薄くなっているように思えます。大人と子どもはほとんど上下関係の中で生きている。子ども同士も、直接関わらなくてすむ便利な道具(ケータイやメール)がすさまじく増え、生きる力が育ちにくい状況となっています。「モモと時間どろぼう」を観て、大人が子どもに何かをしてあげるといことでは、何も解決しないんだ、とあらためて感じた。それは「子どもの参画」を柱に取り組んでいる活動の中で実感していることでもある。大人の関わり方しだいで、子どもたちはみんなモモのように力を発揮する。子どもと大人が「共に考え、共に創り、共に生きる」ことこそが未来を創っていくことなのだと思う。

今回の公演、豊かな時間とは何か、を考えさせられる舞台でした。子どもたちには“とびっきりの子ども時代”を経験させてあげたいものです。今回の公演を始める前に「事業の課題」のところで私たちは書きました。今後の課題としても今一度掲げたいと思います。

子どもの体験の場づくり

最近の子どもたちの生活は、地域での社会生活はほとんどなくなっています。だからこそ、多くの異年齢の友達と自由に、のびのびと遊んだり、共通の目的を持って行動することで、友情を深め、社会的体験を高める自主的体験の場はなくてはならないものになっています。こうした体験の場子どもたちの成長の場としての役割を求められ、この役割はますます大きくなっていきます。

岐阜子ども劇場スマイルパークは、全ての子どもたちを視野に入れて、より地域に根ざした様々な子ども体験(生の舞台鑑賞、自然体験、遊び体験、仲間体験等)活動を通じて、子どもの文化・芸術の創造・普及の発展をめざし、子どもたちの友情と感受性、自主性、創造性を育み、子どもたちの健全な成長を図り続けていきたいと思えます。